

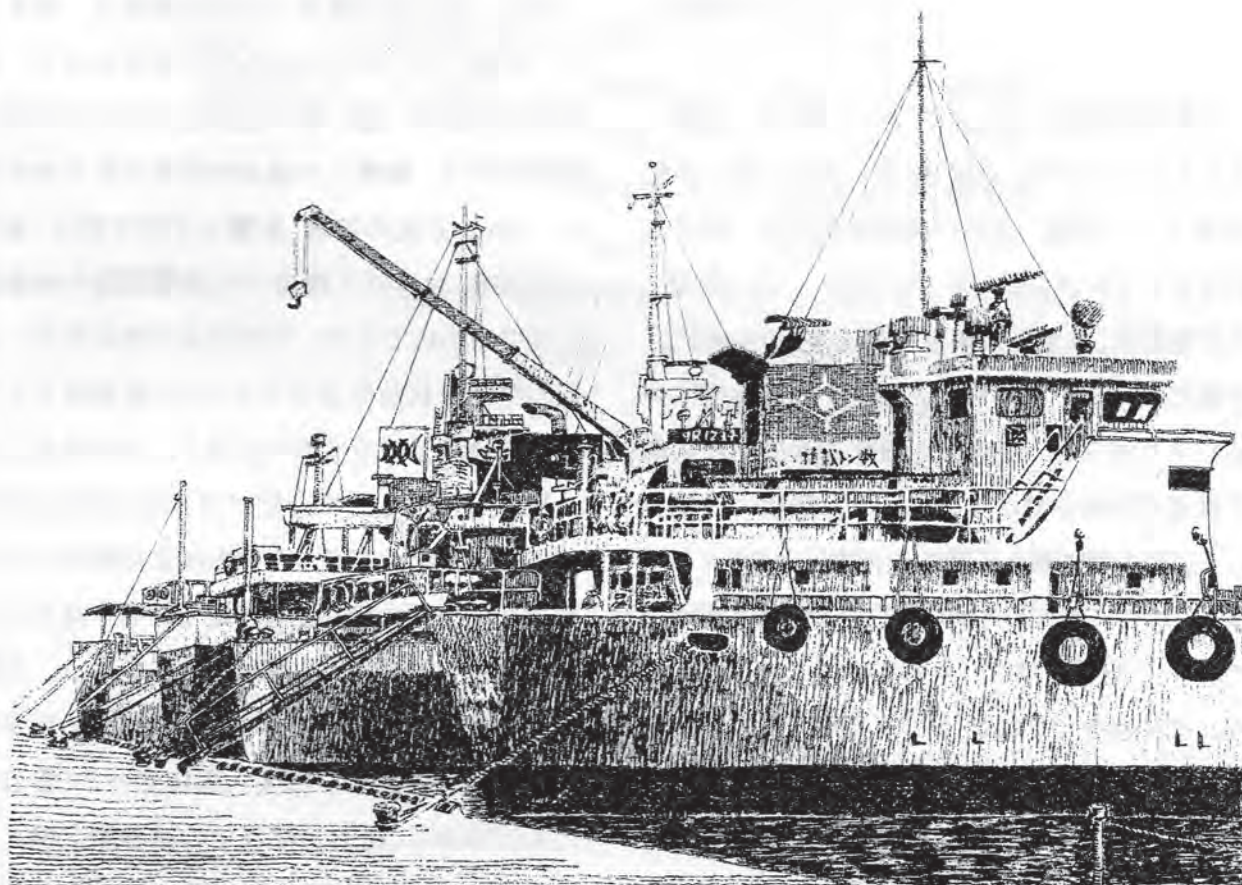
ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2012年3月1日
3月号 第122号

奈良・人と自然の会

会長 阿部和生



- * リレー随筆「お元気ですか」
- * 「永年会員表彰」「新春講演会」
- * 2月報告：「室池探鳥会」「自然観察会」
- * ならやまレポート・自然観察>・「恋しいベッド」・“新池”造り
- * 自然俳句・「自然をいただきま〜す」
- * つぎの獲物は？「昆虫講座⑩」・スズメ「鳥シリーズ」・癒しの散歩道
- * 「安堵町散策」・地域情報・「歴史文化クラブ」発足
- * 3・4月の行事案内：「和爾の里」「吉野の桜」
- * 今月の表紙・ペン画によせて

		1
2	~	4
	5	6
7	~	9
	10	11
	12	13
14	~	16
	17	18
		19



ルー随筆 お元気ですか！



福島原発事故に思う。

笠井文夫

元気の秘訣

小西信夫

新参門の随筆お許しください。僕は、重複するものの、ジョギング歴40年、ウォーキング歴15年です。勿論、目的は健康管理です。暇があればジョギングかウォーキングをしています。累代糖尿病、高血圧の家系である上、現役時代、仕事に神経をすり減らし、帰宅すれば女房に神経をすり減らし、医者から慢性高血圧、糖尿病予備軍の診断を受けていました。職場の先輩から「退職を期に高血圧薬の服用を止めた。」と聞き、「よし、他人がやれて僕も出来ない訳はない。」と。退職を期に、年齢を考慮して、ウォーキングに精を出すことにしました。長年服用していた高血圧薬ディオパンに決別を宣告、目標一日3万歩(約4時間)、常備薬に代わって血圧計で毎日測定、その結果、通常人の血圧を維持しています。「血圧の薬止めたら絶対だめです。」と言っていた医者は、「血圧の薬もう飲まなくていいですわ。」と。余談ながら、僕は、夢、勇気、元気という言葉が大好きです。夢とは、年を重ねても恋をすること。勇気とは恋をした相手に「好きです。」と言える勇気、元気とは、恋人が出来、勇気を出してプロポーズしても元気がなくては失恋したのと同じじゃありませんか。これが僕の元気の秘訣です。仲睦まじい本会のご夫婦には、本随筆を黒塗り。

昨年の東日本大震災での津波被害は、痛ましく、言葉もないがこれから先年月をかけて、目標を掲げ復興へ進む事が出来る。しかしながら、原発災害は、健康上や経済的被害は計り知れない、これから先の被害、影響も予測不能で、東電では無理。マスコミ報道でも補償問題や料金値上げで叩かれてるが、市場経済で株式会社、会社の存続と利益を追求するのは、経営陣としては是非は別として当然やと思う。先の定まらない補償問題は1民間会社では、手に負えない、良い機会と考えて国内九電力独占体制をゼロから見直し、送電分離、全国送電可能等を踏まえて、東電の在り方を考える事が大事やと思う。原発に付いても、世界中唯一の原爆被害国の我が国が政官財一体となり原発大国に走った、警告した人は排除し、祖も自然界での核分裂で無く人工制御は、その放射能汚染の甚大な影響、使用済核燃料処理を考えると不遜な事をしてると思います。



永年会員表彰&新春講演会

平成24年1月22日(日)

13時～16時30分

奈良市中部公民館 5Fホール

参加者 会員43名、一般79名 合計122名

(1) 永年会員表彰

「奈良・人と自然の会」が発足して10周年、新春講演会に先立ち、阿部会長から10年継続して、当会の発展に貢献された会員17名の方に、感謝状(プレート)が贈呈された。



表彰者のお名前(50音順敬称略)

阿部和生、石井保雄、氏本仁志、甲斐野幸一、笠井文夫、勝田 均、勝田 緑、川井秀夫、川勝孝雄、田中暉英、寺田正博、豊島すみ子、西谷範子、野田陽子、樋口義雄、柳田弥知子、弓場厚次の各氏。

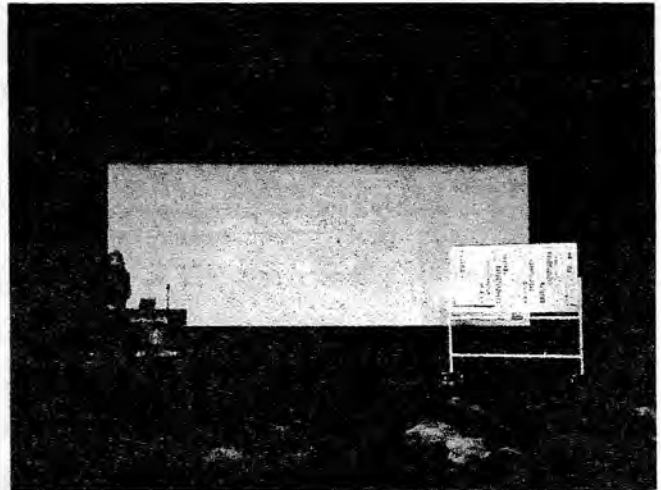


(表彰後の記念撮影)

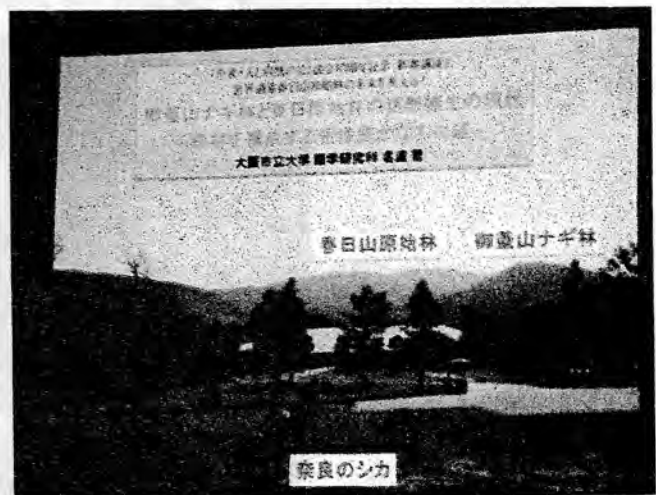
(2) 新春講演会(13時30分～16時30分)

世界遺産 春日山原始林の生態系のバランスが崩れているのではないかと危機感から、10周年記念講演会は、「春日山原始林の未来を考える!」という演題が選ばれた。

講演内容は、大阪産業大学大学院教授の前迫ゆり先生「共生と崩壊の岐路に立つ春日山照葉樹林」



大阪市立大学大学院准教授の名波 哲先生「御蓋山ナギ林と春日原始林の自然植生の現状」について、ナギ(移入植物)、ナンキンハゼ(外来植物)の繁殖力と鹿の摂食圧力によって、春日山原始林の植生が回復出来ない状況に追込まれている旨の説明があった。



講演後、質疑応答がおこなわれ、御来場の渡邊弘之京都大学名誉教授のお話で締めくくった。「春日山原始林の植生の現状および解決方法の模索」について参加者の理解が深まった。(藤田記)

名波先生の講演を聞いて

守口 京子

演題：「御蓋山ナギ林と春日山原始林の自然植生の現状」

講師：名波哲先生 大阪市大准教授

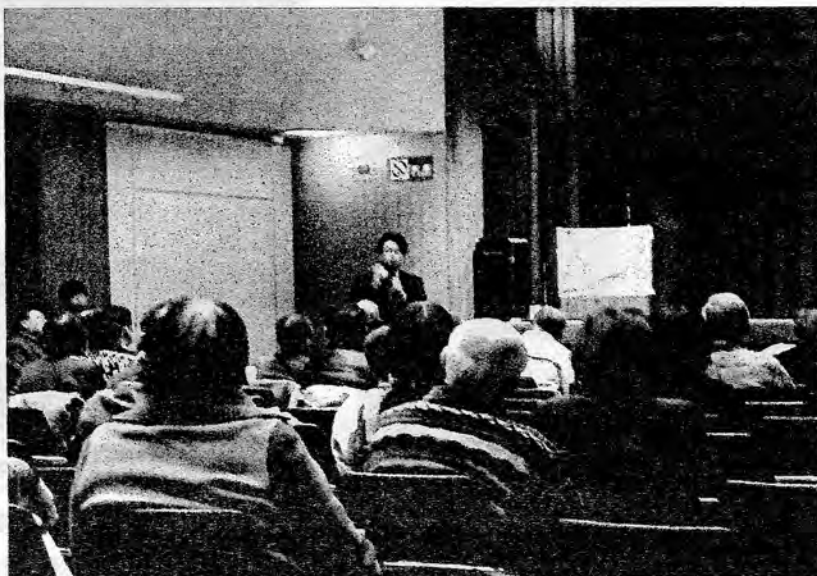
春日山に生育する植物を中心に、植物の雌雄、生き方についての興味深いお話を聞くことができました。その中で3つのことが私の印象に残りました。

自然を美しいと感じる心は古今東西同じ 200年以上もの昔、日本のアオキの艶やかな緑の葉と赤い実の美しさに魅せられたイギリス人の話を聞いて、先日ならやまでパトロールの折り、アオキの実を見つけて歓声をあげた人達のことを思い出していました。持ち帰られたアオキは、緑の少ない冬のイギリスでは喜ばれ大事に育てられたことでしょう。結実を待つこと80年、雄株が運ばれて、ようやく赤い実をつけるようになったそうです。

植物の生き方は動物以上に多様 今まで私は植物の性のタイプは雌雄同株と雌雄異株の2つと理解していましたが、先生によると何と8タイプもあるそうです。身の回りの何百もの植物がいずれかに分類されるということですが、2つでさえ難しいのに8つに分けるのはもう無理だと思いました。おまけに性転換する植物もあるので感心するばかりです。

ナンキンハゼの驚異の戦略 ナギは成長が遅く、種子が風で散布されるため、移入されて1200年以上たっても御蓋山周辺に広がる程度ですが、ナンキンハゼの進出は驚異的です。異型雌雄異熟、つまり雌性先熟の株と雄性先熟の株の両方があるため、どの時期の開花株にも受粉の可能性があるということです。その例として示された2匹のシーボルトミミズががっちりとお互いの精子を渡し合っている写真は印象的でした。その上ナンキンハゼは無性生殖も盛んに行い、地中から根を伸ばしクローンを作ります。1本の株から40ものクローンが成長し、八分身の術を使う忍者も驚きの40分身の術です。もう参加者は皆ため息でした。

先生の言葉の端々に自然観察の楽しさや研究する喜びが溢れていて、シニア世代の私共には刺激になりました。日頃の活動はともすればマンネリ化し、「もう覚えられへん、忘れたわ、しんどいわ」と言っている自分に喝。



新春講演会「春日原始林の未来を考える！」を終えて

阿 部 和 生

国土の68%を占める森林を持つ日本は、先進国の中でも特異な存在です。樹木の生育条件に恵まれ、古くから人の心に自然への崇拝・畏敬を持つ民族です。自然を人がコントロールするのでなく“共生の精神”で共存してきました。

現在人口1億2千万人江戸期の事を思えば 数倍の人が比較的豊かに生活しています。しかも戦後の経済政策・経済構造からその多くの人々は都市部に暮らし、農山村人口減少・高齢化そして地域によっては過疎の村になっています。森林や里山は、人があまり足を踏み入れなくなりました。

そうした社会背景から 中山間地では、人間の居住区と野生動物の活動域とが重なるようになってきているのが現実です。野生動物は、外来種も含め多くの種がありますが、森林生態系の変化や農山村の獣害といわれるものは、クマ、シカ、カモシカ、イノシシ、サル、アナグマ、タヌキ、等に代表されるでしょう。その中で「ニホンシカ」の繁殖増加は、気象の変化も加わり、持続的・爆発的で研究者はかねてより様々な、啓発や警告を発してきました。しかしながら 戦後の「燃料革命」や「化学肥料」の出現により山林は利活用しなくなり、放置された里山林、森林は、人々の関心から置き去りになり 山が荒れ果て変化していても関心を持つことが少なくなっています。

奈良県大台ヶ原、台高山脈も台風など攪乱や暖冬の気象条件が加わり、シカが異常なまでに増加し、山林の様子が一変してしまっています。自然観察会でその昔訪れた風景は、無残なまでの様相になっています。苔むした、鬱蒼とした山林は無く、トウヒが枯れ ミヤコササが繁茂、シカの楽天地と化しています。シカによる樹木の剥皮（川はぎ現象）により、高木といえども立ち枯れ現象が多く見られます。国天然記念物のオオヤマレンゲも僅かな防鹿柵の内部をのぞけば、壊滅状態に

あります。この状態を憂うる、諸団体、研究者の警告は生かされず 10 年を経た今日でも 改善の兆しが見えない状況です。

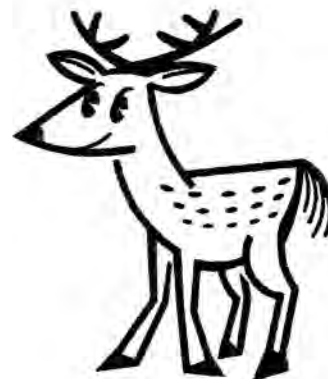
森林は、成育に時間がかかります。また、特定種（シカ）の30~40年ほどの異常な繁殖増加による生態系の偏りは、早期に解決の道筋を付けなければならない時に来ています。

平成11年鳥獣保護法の改正により「県」は「特定鳥獣保護管理計画を策定」する事になっていますが、現状はすべての獣害種計画が出来上がっていません。

奈良公園のシカは、天然記念物に指定され、春日大社のお使いとしても崇められるという特殊な事情があります。当事者である春日大社、シカ愛護会などが、「保護管理」を真剣に考え対策を打ち出すべきであると思います。自然に溶け込んだ文化的記念物という一面を大切にしつつ その方策を当事者が策定・提案することが望まれています。

多くの人々に 現状を周知、啓発することは、「保護管理」の理解を深め より良い環境・豊かな生態系を取り戻す方策実施にも生きてくるものと確信します。

カシノナガキクイムシの発生から、今回の「春日原始林の未来を考える！」と題した 講演会実施に至った所以です。



2月8日(水) 天候(曇り時々雪)

担当 小田久美子・勝田 均

前日と打って変わって冷え込みがきつい日でした。参加者は少ないのではと予想していましたが、事前の予想に反して20人もの方の参加でした。

バスを降りてから雪が顔に当たります。「家の人にこんな日によく出るわ」と言われたとか話しながら出発です。室池園地に行った人は多かったのですが、生駒からのコースは初めての人が多くいいコースだと話しながら歩いて行きました。それにしても、鳥の声が聞こえません。ヒヨ、アオジ、ウグイスなどは聞こえるはずなのですが……。少し歩いてやっとエナガ・シジューカラ・コゲラの混群に出会えましたが、鳴き声だけでほとんどの人が姿の確認ができませんでした。体操の後いよいよ登りです。

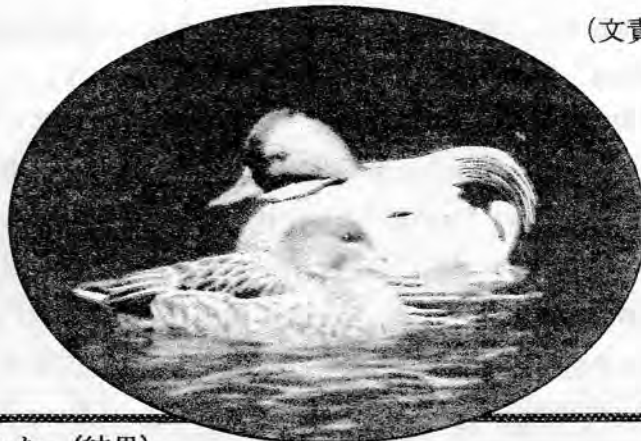
途中の池には何もいませんでした。鳴き声もしません。いよいよ室池園地です。サザンカが咲いています、メジロの姿は見えません。

森の工作館前で昼食です。今日は寒一中です。昼食後阿部会長より信貴生駒山麓に大阪府の公園が広く残されたのは勇氣ある大阪府職員がいたからという話を聞き、里山の様な雰囲気が残った園地のことを改めて考えさせられました。いよいよスコープの出番！！と思って池に行きましたが、下見の時はいたはずのヨシガモが1羽もいません。それどころか、なーんにもいないのです。アオサギが……。寒い風が身にしみます。気を取り直して、反対側に回ると風を避けていたヨシガモの集団が目に入り、みんなわーヨシガモ！！今日の探鳥会は何？と思っていたのがはじけ飛んで大興奮でした。それからはホシハジロ・キンクロハジロ・マガモとしっかり見ました。お目当てのオシドリはいませんでした、大満足でした。

(18種の鳥) 籠脱け鳥のソウシチョウの鳴き声がしました。私には分かりませんがさすが小田さんです。

(ヨシガモの♂・♀)

(文責 勝田)



皆さんにアンケートに答えてもらいました。(結果)

I) 今日の探鳥会の満足度は?

①満足(*^_^*) 12 ②普通(^-^) 5 ③不満(^u^) 0

○どのような点がよかったですか?

ヨシガモの美しさに感激

スコープからしっかり見れた

II) 今日見た鳥であなたのお気に入りの鳥は?

1位 ヨシガモ 2位 ホシハジロ 3位 マガモ
以下 キンクロハジロ・カイツブリ・アオサギ

鳥を見るポイントを具体的に説明してもらってよく分かりました

III) 見たい鳥は?

・ヤマセミ・オシドリ・アオバト・ソウシチョウ

IV) 探鳥会で今後行きたいところは?

枚方(淀川) ・畝傍 ・生駒の野鳥のサンクチャリーがあると聞いているのですが

奈良公園の自然観察会を実施しました！

2月15日（水）あいにくの空模様でしたが、予定どおり奈良公園の自然観察会を実施しました。参加者は合計13名で、幸い雨にも降られず、小田さんの指導のもと、寄生植物・鹿の食べない植物・奈良公園の珍しい植物などを中心に楽しく観察をしました。もう春が近づいているなという兆候がいたるところにありました。

また、子どもが夢中になるネイチャーゲームの「カモフラージュ」、「同じものを見つけよう」を楽しみました。みなさん 子どもに帰ったような気持ちで、なかなか鋭い観察眼振りを発揮していました。



『自然教室チーム』平成24年度 スタッフ募集!!

『自然教室チーム』は主として小学校で自然観察会をしています。

子供たちと一緒に「自然と親しむ」、「自然遊びをする」という楽しい活動を目指しています。概要は次のとおりです。奮ってご参加ください。

1. 活動の概要

- ① 小学校の授業や放課後教室などで校庭の自然観察会を担当します。
- ② 要望があれば公園等での自然観察会を実施します。



2. スタッフの資格

経験は不問です。自然観察の好きな方、子どもの好きな方であれば誰でもできます。

また、実際の活動の準備のために、以下のような研修を行っています。

- ① 自然観察（研修）会
- ② 自然のふしぎや魅力を伝える話し方の実習
- ③ 小学校の観察会では下見に加えて、リハーサルの実施



3. 募集人員など

- ① 人数には特に制限はありません。
- ② ただ、チーム内の連絡は原則としてeメールで行いますので、パソコンの利用可能な方をお願いします。

4. 申込みや照会

倉田 宛に メールまたは TEL/FAX をお願いします。

以上

ならやまプロジェクト・レポート 24年2月

1月26日(木) 晴 参加者36名+1名

里山 G コナラ皆伐萌芽試験区の整備完了。薪作り本格開始。農園 G 畑土づくり(全面チップ播き)完了。景観 G ビオトープ池の泥浚え着手。サトイモ収穫、椎茸冬子収穫。見学者1名。



2月2日(木) 晴/雪 参加者36名

里山基礎整備(E地区)。ビオトープ池の泥浚え。ならやま自然の森の観察路の笹刈り。第二駐車場北寄りの階段の整備を行う。新入会員4名参加。



2月9日(木) 晴/雪 参加者36名

里山基礎整備(E1地区)。孟宗竹伐採。ビオトープ池の泥浚え。田圃通水溝の改修を行なう。

2月16日(木) 曇り/晴 参加者38名+33名

椎茸菌打ち約110本。ジャガイモ(5種類)植付け。ビオトープ池の泥浚え。池の護岸用竹材の搬入と切り出し。



シニア自然大学校実習生3名、まほろばシニアリーダーカレッジ現場実習受入れ。

県森林技術センターより皆伐試験区の調査に来訪。



ならやま里山林自然観察レポート

ならやま里山林花だより

山中 笙子

2月16日 立春も過ぎると木々の冬芽が成長を始め、小さな蕾も膨らんできました。冬芽を観ると、オニグルミやヌルデ、アジサイの葉の落ちた痕が、まるでユーモラスな動物の顔みたいで笑えます。羊やうさぎ、オコジョに見えます。葉痕の中の目や鼻や口のように見える斑点は、枝から葉へ水や養分を送る管の維管束痕です。

野草では、秋に発芽したスイバ、タネツケバナ、オオアレチノギクが、葉っぱを放射状に重ならないよう、ブローチ（ロゼット）みたいに地面に広げ、冬の寒さや乾燥をしのぎ、陽の光をたくさん浴びようと葉を立ちあげ春待ち顔です。

草花*ハコベ、ナズナ、ホトケノザ、オオイヌノフグリ

セイヨウタンポポ

花壇*スイセン

木の蕾*クロモジ、ヒサカキ、アセビ、ウメ、ジンチョウゲ、

ミツマタ

木の花*ハンノキ（雄花）、



木の冬芽

ならやま鳥だより

小田 久美子

2月13日（月） 菊川さんと6種 70羽をカウントしました。70羽の内50羽はツグミです。

オオクチキムシ（以後クチキ）：ウワー寒む。えゝ

気持で寝てんのに、さっきから騒々しいなあ
と思ってたら、なんで俺の
寝座（ねぐら）を切り倒す
んや全く。

オオゴキブリ（以後ゴキ）：

おーい、そこの小さいのん。
お前もやられたか、わしも
このフワフワの枯れ木ベ

ッドで齧かいとったんやで、もうちょっとで
腹真二つにされるとこやった。

クチキ：お互い、えらい災難やなあ。カブトム
シの幼虫やったら保護するらしいで、同じ昆
虫やのに全くわからん！！

ゴキ：ほんまほんま、わし等は一年も生きられ
るかどうかわのに。雪のちらつく時に放り出さ

れたらベッド捜しに困りまんなあ。

クチキ：そうですがな、ヌクヌクとえゝ夢

見てたのに。貯えもないし
元気出ませんわ。もうす
ぐ恋の季節やと言うのに。
朽木：そこの虫達、ブツ
ブツ言っていないで早よ俺
のスポンジベッドへ潜れ
よ、何とか春迄は守ってや

るよ。お前達には残酷に思うやろけど、人々
はこの里山整備して少しでも自然保護をと
頑張ったはんねん。

クチキ&ゴキ：分かった分かった。朽木さん宜敷
くお願いします。

「恋しいベッド」



竹本雅昭

（1月の里山）

新池造りを始めます

羽尻 嵩

昨年、「ならやま」の水辺の生き物たちに沢山の元気もらい、ここが水生生物たちの楽園になってほしいと願い、水辺の環境整備に関わらせていただきました。

ただ、現状は、水生昆虫はそこそこの種類がありますが、魚類はドジョウだけという寂しい状況です。せめて、メダカでもいたらなと思っている中で、ニッポンバラタナゴの育種の依頼が近大農学部の中川氏から阿部会長を通じてあり、私もその取り組みの一員として協力させていただきましたことになりました。

バラタナゴはドブガイの鰓に産卵し、またドブガイの幼生はヨシノボリのヒレに寄生し稚貝となるので、これら3種の生物が共生していける環境を作らねばなりません。一番の要点は、ドブガイをいかに増やすかということということです。ドブガイが増えればタナゴも増えるといわれています。

また、育種に当たっては、バラタナゴが鳥に狙われないようにしなければなりません。そこで、より良い水質を維持し、さらに魚を防鳥ネットで守れるようにするために、小規模な池を新たに作ることにしました。

池は6.4m×4mの広さを上段と下段に分け、変化をつけるようにします。上段は浅めにして水の流れを作り、砂利を入れます。下段は最水深40cmとし、魚の住みかとなる石組みを取り入れ、また、草場・エサ場も設けます。

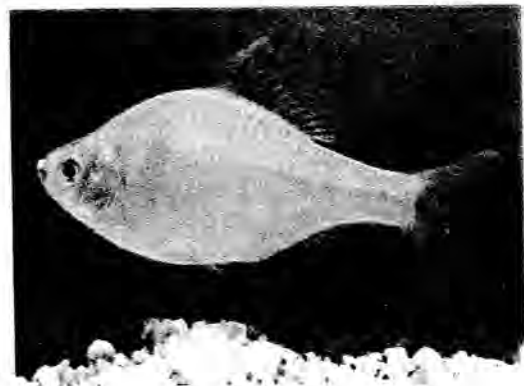


新池での育種がうまくいけば、水の流れを旧池も含めこの区域全体に開放し、バラタナゴも含めいろんな種類の水生生物が広く活動できるようにしたいと思っています。

2月に池の周りの土手作りと歩道橋作りを始め、3月から池の周囲の柵作り、池の中の造成とすすみ、4月の下旬には完成に持ち込みたいと考えています。

池の周りの土手は、間伐された杉の丸太と砂を入れて固め、その上に板で歩道橋を作ります。池の周りの柵とか土留は竹を使います。竹の伐り出しは、多くの方のご協力をお願いせねばなりませんし、柵作りとか、土留の竹の杭を作るのは、手慣れた方のご指導を仰がなければなりません。よろしくお願いいたします。

私ごとですが、この溜池ビオトープとの関わりについての記録と想いを、1月末に自然大学の環境科で発表しました。これでまた水のネットワーク造りの輪が少しでも広がればなと思っています。



自然俳句欄

古川 祐司 氏より初投句がありました。

ならやまに夢なほ多し冬の蝶

古川 祐司

里山 G・M の感傷的な思いと垣間見る。‘冬の蝶’、の季語は何と暗示するのか。季語の斡旋が良い。

そっと降れ佐保の苗木に寒の慈雨

古川 祐司

今年の冬はことのほか乾燥が進む。昨年、植樹が続き育樹には雨が欠かせない。待望の天恵に感謝の祈り。

ひたむきに祝十年の礼者かな

川井 秀夫

十年在籍者に感謝状授与。新春の慶賀と共に面はゆい面々の顔が印象的。益々のご健闘を祈りたい。「礼者」は新春の季語。

おき

咳ひとつこぼして燵の灰神楽

川井 秀夫

里山にドラム缶の暖炉 兼焼却炉が鎮座する。燃料は同伐材。燃焼した灰が、咳と共に舞い上がる。背ける顔のあれこそ。

また

北風と切り木を伐り斧をふる勇者

川井 秀夫

寒波の来る日は作業は辛い。わが山男は敢然としてらつ腕を振るう。安全第一、体力温存。お年を考えて・・・。

ともから

輩と人肌酒に春の色

川井 秀夫

某日。「のらの会」新春の交杯。銘酒が並ぶ。浮世咄に談論風発。顔は桜色。春は近い。輩は連中・仲間のこと。





自然をちょっぴり いただきます～す 西谷 範子

さあ野草料理の季節になりました。ならやまでもいろいろな草や木が芽吹き、その気になればなんでもOKですが、中には毒草もあるのでご用心。

よく知られているのが、3月早々芽を出すツクシ。芽を出すと言っても、これはスギナの胞子茎で、「ツクシ誰の子、スギナの子」と聞いて、ツクシが大きくなってスギナになるわけではありません。

触るとぱっと散る青い粉は胞子です。花が咲いて胞子を飛ばすと枯れてしまい、後からスギナの葉が出てきます。



ツクシ料理はよく知られているので、あまり詳しく紹介しませんが、まずハカマを取ることに始めます。ハカマはもともと茎についていた葉です。これが付いたままだとしゃがしゃがとしておいしく食べられません。これが面倒でつくし料理をしない人も多いです。

早いうちは硬いつぼみのままのを採って、さっと茹でて水にとります。晒すと青い汁が出ます。これは苦いのですが、あまり晒しすぎると、春のほろ苦さが消えてしまいます。つぼみばかりでは苦すぎる時は、胞子の開いた後のツクシも混ぜるとよいです。

よく知られているのは卵とじですが、食べる直前に作らないと、時間が経てばツクシのアクで卵が汚くなってしまうので、気をつけて。

佃煮、三杯酢、つくしご飯（これも後で混ぜる）、かき揚げなどなんでも出来るが、若い人にも人気はさんぴらです。

スギナもさっと茹でて、フライパンなどで乾煎りし、ごまや鰹節などと混ぜてふりかけにします。

若いスギナを生のまま熱湯をかけて少しおくとスギナ茶になります。沢山採った時はそのまま陰干しにしておき、煎じてスギナ茶とするのは昔からよく知られています。



春をさがしにでかけませんか♪



次の獲物は何にしようか

—やさしい昆虫講座（第17話）—

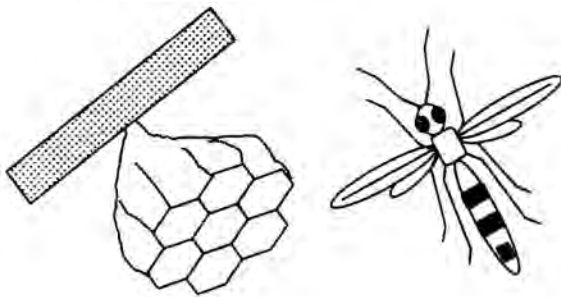
木村 裕

アリそっくりのハチがいます。メスには羽根がなく、きれいな斑紋があります。単独でめかしこんでいる美人のアリがいたらアリバチと思ってください。もちろん触れば刺されます。

座敷の上を単独で胴体を引きずって歩いている黒くてやや大型のアリがいればアリガタバチです。本来は畳を食べる甲虫に寄生しているのですが、時々さまよい出てきます。触るとやはり刺されます。

ハチと言えばこのように刺す、人を襲うなどイメージの悪い虫ですが、私たちに悩ませているのはほんの一握りのハチで、大半のハチは農作物や樹木の害虫を退治してくれている尊敬すべき益虫です。

女王バチがいて、雄バチがいて、働きバチがいて、巣を作って社会生活をするハチは、ミツバチ、スズメバチ、アシナガバチのグループです。



スズメバチ類は軒下、木のうろ、地中に大きな巣を作りますが、この巣は1年ぼっきりで翌年に再度利用されることはありません。この巣の近くで騒ぐと警戒態勢に入り、多くのハチが飛び出し、攻撃してきますので、おしゃべり好きの方は注意してください。とくに攻撃的なのはやや小型のキイロスズメで、秋に新聞の紙面にときどき登場するスターです。最も体が大きいのはオオスズメバチで、飛んでくると鳥が飛んできたようで迫力満点

です。毎年9～10月頃、我が家のクレオメの花の蜜を求めて頻繁にやって来て、邪魔だとばかり耳元でときどき威嚇します。

信州名物の蜂の子は、大きなスズメバチやアシナガバチではありません。地中に巣を作るもっと小型のミツバチ大のハチで、黒くて胴体に白帯のあるクロスズメバチの子供や蛹です。

アシナガバチ類は皆さんに最もなじみの深いハチだと思います。軒下、生垣の中など雨のかからない所で丸い典型的な巣をこしらえます。巣を直接攻撃しないかぎりは傍に近付いて挨拶しても大丈夫でしょう。

手足が長く、体がやけに細長くて痩せこけたハチはジガバチです。土の中に巣をつくり、アオムシやイモムシを集めてせつせと土の中の巣に運び込んでいます。ならやまのベースキャンプ地の地面に穴を掘ってイモムシを運び込んでいたのは、ジガバチの仲間のアナバチです。これらの獲物は針で刺されて麻酔された状態にあり、生きてはいるものの体を動かすことは出来ません。親バチはその獲物の上に卵を産みつけ、ふ化した幼虫はこの新鮮な餌を食べて成長します。賢いですね！これなら食料が腐ることはありません。

ベッコウバチの仲間も同じように地面に穴を掘って獲物を運び込みますが、その獲物はクモです。ハチの仲間には、胸と胴体がくびれない寸胴のハバチやクキバチがいます。名前の通り幼虫は樹や草の葉を食べたり、茎の中に潜ったりします。成虫は不恰好ながられつきとしたハチですが、幼虫はアオムシのような虫です。皆さんに最も身近なのは、春先にツツジの葉を食べるルリチュウレンジと言うハバチです。黒い点々があるアオムシで蜂の子とはとても思えません。



スズメ

小田 久美子

当たり前に見られたスズメが全国的に減少しているようです。一説には3分2と云われます。原因には、住宅の変化(瓦屋根の減少)・農薬による虫などの減少及び減反による餌不足・天敵カラスの増加の三重苦が考えられます。そのために少子化も目立ちます。都市部では1,4羽、農村部では2,5羽。辛うじて農村部で増加ですが、一つがいが雛1~2羽を育てるのに苦労してい



る姿は、何処かの国の人工増加率と同じようです。先日、タクシーの運転手さんの手から餌をもらうスズメを放映しているのを見ました。アジアでは古くから稲作の天敵として追われてきたスズメは、普通は決して人間に馴れない鳥でした。でも彼らとて生きていかなくてはならないのですから、いつまでも意地(?)を張ってはいられません。このおじさんは危険ではないと固体認識をしたこの一羽のスズメの行動は賢明です。文化大革命の中国では、全国でスズメを退治した結果、稲が全滅し飢餓が増大したという話是有名です(勿論、当時中国はそのことを内外に内緒にしていました)。この教訓を今の日本でどう考えていけばいいのでしょうか。皆さんのお近くのスズメはどうでしょうか。

<癒しの散歩道>

小さな春の夢追いかけて

谷川 萬太郎

窓の外は冬の木枯らし背に受けたなごり雪が凍えて 待ち焦がれる季節の温もりは何処にいるのだろうか
ただ黙ってしんと冷い頬の寂しさに耐えながら 過去に想い出残した足跡は遥か彼方へと消えてゆく
深い眠りの中を彷徨いながら産声をあげた小さな春 手を差しのべた柔らかな雲の上に浮ぶ白い天使たち
歩み続ける希望の道を眼下に見てあの広い大空へと 巣立ち羽ばたく鳥のように直に飛んでゆきたいから
目覚めれば碧い空色褪せぬまにめぐる春を追いかけて 先ゆく道は果てしなく遠く熱き胸の想い抱きながら
今は誰もいない静かな海に約束しよう春の来る日を 名もない白い星の光餐々と穏やかな海に落ちて煌く
朝靄の中を駆け抜ける爽やかな春風に揺れる花びら 生きる自然の命の欠片探し続けて男旅は今日も行く
季節の便り携えて訪れる山里にいつしか春の匂いが 喜び溢れる可憐な花達がすみれ色に染まる春が来た

歴史と文化の町安堵町の散策

富井 忠雄

私が住んでいる安堵町は、生まれてから 60 年になりますが、リタイヤするまで今まで安堵町の歴史・文化などがほとんど知らなかったが、興味をもち昨年に安堵町を見学・散策し安堵町の歴史・文化をお伝えします。

まず家の近所で北東に約 400m 天理軽便鉄道の橋げた跡があり、このミニ鉄道は戦前に利用されていて蒸気機関車が法隆寺駅—安堵町—平端—天理までの路線で特に天理教信徒を輸送目的などに使っていて昭和 27 年に廃線になり橋げた線路跡などが残っています。

つぎは 500m 北東に行けば善照寺（浄土真宗本願寺派）1467 年開山で阿弥陀如来を、境内には「富生の松」と名づけられた古松は樹齢 250 年からなる根が大きく盛り上がりその根の中にニホンミツバチと共生している荘厳な松であり珍しいと思った。このお寺の近くに広峰神社があり聖徳太子ゆかりの飽波宮跡に建てられた神社でここではムクロジの木があり青い実がたくさんなっていた。鳥居の前に業平姿見の井戸がある。

これから南に斑鳩宮と飛鳥宮をつなぐ道、太子道を通して飽波神社があり、雨乞いの（なもで踊り）の絵馬や祭具などあり、また聖徳太子が飛鳥から調子丸と黒駒に乗ってこの地の石床に腰をかけて斑鳩宮が見えて「安堵」したとか？

東安堵の中心地にある歴史民俗資料館は奈良県再設置（明治時代一時奈良県が堺・大阪府に合併）の功労者である今村勤三の生家で安堵町の民俗資料や今村家の資料があり、また 1850 年頃から今村文吾と後に天誅組に参加する（伴林光平・青木清一郎・平岡鳩平）と交流を持った、また今村荒男（大阪帝国大学総長）は富本憲吉とは仲が良かった。この資料館で伝統産業の灯芯作りをチャレンジしたが、うまく出来ず大変な思いをしました、私が小さい頃風呂場で灯芯と菜種油で火を付け灯りとしていたのを思い出します。

この資料館の南側は富本憲吉記念館で初の人間国宝とのちに文化勲章を受章になった陶芸家の生家です。半世紀わたる作品が展示されて繊細で美しい色絵磁器はみごとであった、この世界的に有名な富本憲吉記念館も今年で閉館になる話が持ち上がり、継続出来るように奈良県・安堵町に文化遺産を絶やさないようにと協力をお願いしているところです。

遺書：“葬式をするな。墓もいらない。作品こそわが墓なり” が有名である。

この庭には数百年の歴史がありいろいろな樹木・草花があり、5-6 月テイカカズラの花 7 月風蘭の花などがみごとである。



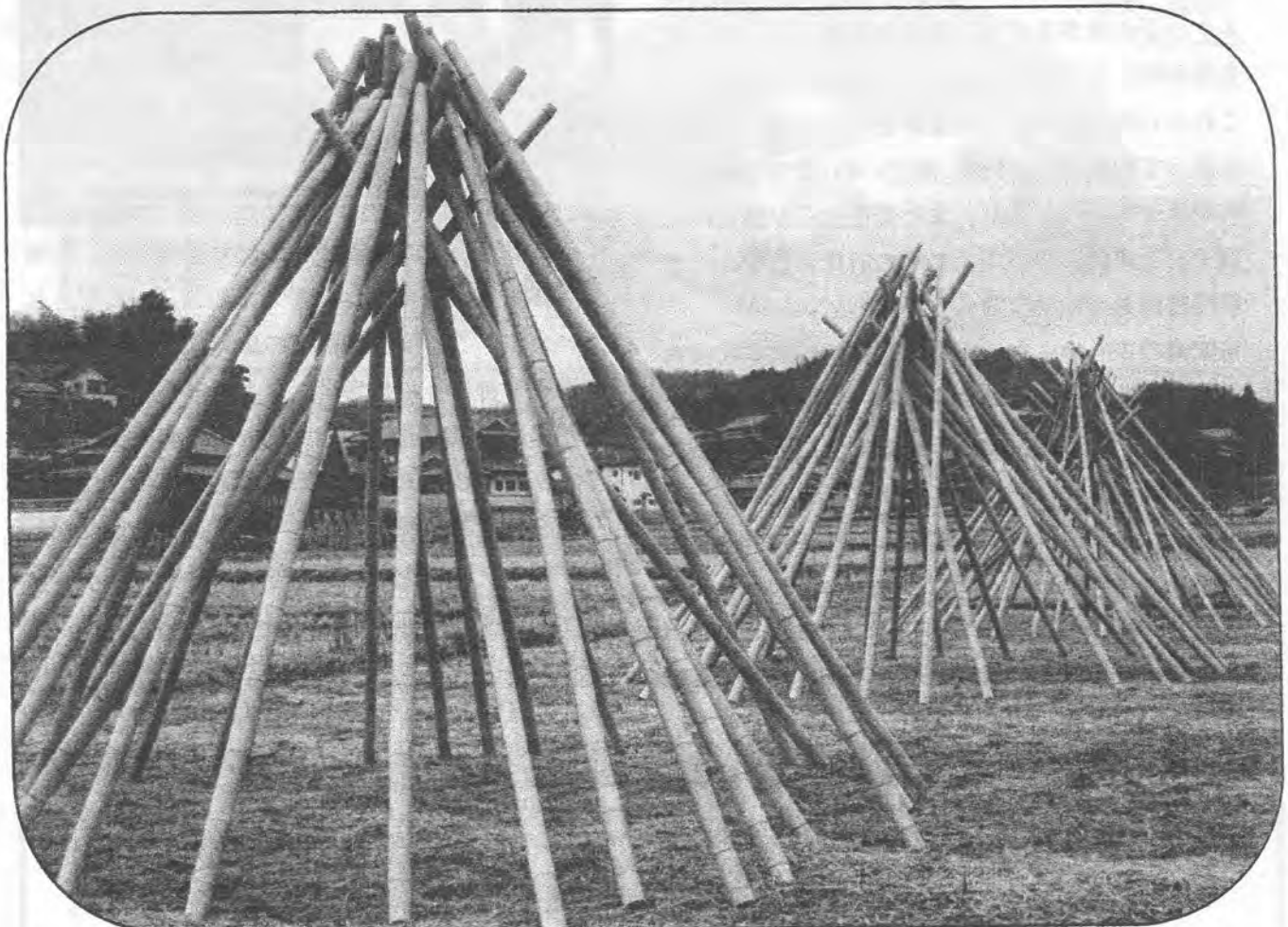
東へ 300m 行くと極楽寺があり聖徳太子の創建で阿弥陀如来坐像や 600 巻の大般若経が安置されています。この度終戦直後の広島市で原爆の犠牲の犠牲者を弔った後半世紀以上行方不明だった阿弥陀如来坐像（通称広島大仏）がこの極楽寺で見つかり昨年 8 月 6 日は、東日本大震災の年に分かれ人を救う為に現れたようで、また広島と交流して平和のシンボルとして、今回広島原爆投下時刻の午前 8 時 15 分に合わせ東日本大震災とともに平和を祈念する法要を営まれた。その後 18 時頃から夢あかり（安燈会）を極楽寺境内から町並みに 1100 本のローソクでガンバロウ日本と平和を祈念しました。一度来て下さい案内しますよ！！

- ★（奈良市）2月14日我が家の近くの空を
 チョウゲンボウが横切りました。（古川）
- ★（奈良市）16日家の近くでウグイスの初鳴き
 を聞きました。（井戸）
- ★ 13日 馬見丘陵でウグイス初お目見え ヨシの中を
 行ったりきたり 思わず「ちょっとジッとして！」と。
 池ではカワアイサ…体の下部の白色がとても印象的。
 今年は冬鳥が少なく散歩（榎原）でもツグミを見ない。
 庭にもシロハラがきていない…山にいっぱい食べ物があるのかな？
 この冬はなんか鳥が少なく寂しいですね。去年は毎朝
 ツグミに「おはよう！」モズにピンズイ コゲラ…と賑やか
 だったんですが。（斎藤）

★（天理）13日柳本駅から崇神天皇陵を通り
 長柄駅までのコース。黒塚古墳でいきなりイカル
 の鳴き声。初めての人も多く、スコープでゆっく
 り見ました。天皇陵ではマガモ・ホシハジロ・キ
 ンクロハジロの♀・オオバン・カイツブリ。オシ
 ドリはいませんでした。下見の時には何もいなか
 った池にキンクロハジロの♀が10数羽いまし
 た。目の金色までしっかりと。今年は少ないと言
 われているツグミがいっぱいいました！！
 長柄駅の隣の池にはハシビロガモが円を描いてい
 ました。短いコースでしたが、久しぶりに満足し
 ました。（勝田）

《高山茶筌の竹干し》

竹は3年生の良質のハチクを冬場に採って、煮て、油抜きし1カ月くらい寒晒しにします。
 この時期に見られる光景で、冬の風物詩と言えます。



『歴史文化クラブ』の発足について

発起人 川井 秀夫 ・ 古川 祐司

弓場 厚次 ・ 鈴木 末一

2月幹事会に於いて、サークル活動の一環として「歴史文化クラブ」が承認されました。人と自然との関係をより広い視点で、有志の方々と自己啓発し、これまで素通りして来た日常風景のなかに、歴史の原風景を追い続けて行きたいと考えます。

現在、企画・運営について検討を始めておりますが、会報誌4月号に今年度の実施要領をお知らせする予定です。

今年は、古事記編纂1300年の記念の年であり、『古事記と出かける奈良の旅』をテーマに伝承の地を訪ねたいと思っております。有識の方々、初心の方々 気軽に入会をお奨め致します。※ 年会費1000円を添え 発起人にお申し出下さい。 文責 川井。

「例会アンケート」結果報告

(今年度例会年間月別計画概要) 「24年度例会準備会」

昨年12月18日～31日に、「例会についてのアンケート」のご協力をお願いしましたところ、総数48名の方々からご協力ご回答をいただき誠に有難うございました。様々な観点から、ご意見・ご要望をいただきまして、今年度以降本アンケート結果に基づき、「例会」を一層楽しく、充実したものにしていこうと思っております。

今年度から、例会企画をご要望の多かった下記テーマに区分して実施いたします。

- | | |
|-----------------------------|---------|
| ① 自然観察会(樹木、花、野草、鳥、虫など) | —5月、9月 |
| ② 季節ハイキング(花、新緑、紅葉など) | —4月、12月 |
| ③ 歴史・文化探訪(歴史遺産、名所めぐり) | —7月、3月 |
| ④ ウォーキング(東海道自然歩道など街道歩き) | —6月 |
| ⑤ 軽登山(標高600m～700mほどの緩やかな登山) | —11月 |
| ⑥ 冬鳥探鳥会 | —2月 |
| ⑦ 一泊研修旅行 | —10月 |
| ⑧ 夏季特別研修会 | —8月 |
| ⑨ 新春講演会 | —1月 |

個別の具体的行き先等は、担当幹事より順次発表させていただきます。会員の皆様のご参加を心よりお待ちしております。なお新年度から、担当幹事を一般会員の方にも積極的にお願いできればということになりました。併せてよろしくお願い申し上げます。

行 事 案 内

※原則：前日午後7時前のNHK天気予報で、降水確率(午前)60%以上の場合は中止

※当会の行事における傷害事故等については個人負担とし、当会は賠償等一切の責任は負いません

『ならやま里山林プロジェクト3月・4月の予定』

場所 奈良市奈良阪町・佐紀町の県有林

—「ならやま会館」前の道路（ならやま大通り）の南側に広がる林地—

3月の活動日	4月の活動日
1日(木)	5日(木)
3日(土) 公開イベント予備日(椎茸菌打ち)	12日(木)
8日(木)	19日(木)
15日(木)	26日(木)
22日(木) (新会員歓迎会 予備日3月29日)	
29日(木)	

集合 現地ベースキャンプ地 9時 終了予定 15時

交通 ①JR平城山駅下車、東口から南へ徒歩10分

②近鉄奈良駅 バス13乗場 8:23発 高の原行 (平日・土曜)

③近鉄高の原駅 バス1番乗場 8:32発 JR奈良行 (平日)

8:30発 JR奈良行 (土曜)

②、③とも佐保台西口、または平城大橋で下車 徒歩約7分

携行品など

・弁当、飲み物、軍手、(作業用具は現地で用意)

*環境保護のため、コップ・箸・碗などは各自でご持参下さい。

活動内容

- ・里山整備、環境整備、花木植栽等の景観形成、植生調査、椎茸作り
- ・復元した田畑での「旬の野菜・健康野菜の有機栽培」、堆肥作り、土作り
- ・「市街地にある里山」を体験する各種イベント、学校授業「田圃の教室」
- ・広域里山パトロール(保全、ナラ枯れ点検、生物調査など)

★ならやま・バードウォッチング

☆日 時：3月12日(月) 9:00集合

★集合場所：ならやま駐車場

☆小雨決行：判断の難しい時は担当者に問い合わせてください。

【3月例会】

～謎の豪族 和爾氏と天才歌人 人麻呂のルーツを探る～

『和爾の里を巡る』

1 日 時 3月31日(土) ※前日7時。降雨率60%以上の場合中止。

10:00 集合 いちもと

2 集合場所 JR桜井線 榎本駅 改札口

交通ダイヤ JR利用 JR奈良 ⇄ ⇄ JR 榎本駅

9:39 9:50

JR桜井⇄JR天理⇄JR榎本駅

9:38 9:55 9:58

近鉄利用 橿原神宮前行き各停(天理にてJRに乘換え)

西大寺 ⇄ 平端(乗換)⇄天理⇄JRへ

9:26 9:39 9:44 9:50

※ 3、20日以降 近鉄ダイヤが変更になります。要 確認。

3 コース 榎本駅～歌塚・柿本寺跡～和爾下神社・古墳～白川ダム(昼食)

(歩程8キロ)和爾坐赤坂比古神社～榎本高塚遺跡～東大寺山古墳～榎本駅

4 準備 弁当持参 飲み物 観察用具 ほか

5 案内役 川井 秀夫

水本 遼真

<4月の予定>



【4月例会】

吉野の桜をめぐる！！

吉野宮滝・万葉の道から、吉野山(上千本・中千本)を歩く。

・日程: 4月17日(火)

・コース: 宮滝バス停—桜木神社—稚児松地藏堂—如意輪寺—吉野駅

・担当: 寺田 孝 平岡久美

* 詳しくは4月号でお知らせします。

平成24年度2月度幹事会報告

日 時： 平成24年2月7日（火） 17:15～20:00

会 場： 奈良市中部公民館

出席者： 幹事15名、顧問1名

- (1) 会員数129名
- (2) 24年度通常総会（5月12日）の実施要領の決定
- (3) 24年度例会年間月別計画概要の決定
- (4) ニッポンバラタナゴ飼育用新池を設置する。
- (5) 「歴史文化クラブ」を同好クラブとして発足させる。

表紙のペン画によせて

境 寛

日生港（ひなせこう）は、岡山県備前市日生町の港で、映画「二十四の瞳」やオリーブ、紅葉の寒霞溪で有名な小豆島への旅客船が発着する。

魚市場に近く、「五味の市」でも有名です。瀬戸内海国立公園の島々が点在する日生諸島へは、この港から出航する。

編集後記：*10年の長きに渡り編集に携わらせていただきましたが、3月号で任を降りさせていただきますことになりました。本当に長い間ご協力ご愛読ありがとうございました。

次の編集は4人編成で行われます。益々より良く読みやすい会報になって行くことと思います。今後ともご協力をお願いいたします。

*会報発送作業・編集会議日：4月号の作業は3月26日（月）午前9時から「奈良市ボランティアセンター」奈良市法蓮町1702-1（0742）26-2270（鴻池運動公園 鴻池バス停より徒歩2分）で行います。毎回多くの会員の方々のご協力をいただいております。今回もよろしくお願いいたします。

*4月号から原稿送付先も変更になります。お間違えのないようご確認ください。＜別紙参照＞

編集担当：勝田 均

TEL&FAX



会報誌「ネイチャーなら」編集者の交代について

春寒ようやくぬるむこの頃でございます。会員の皆様方には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。日頃は会の活動にご支援、ご協力を賜り有り難うございます。

さて、「奈良・人と自然の会」は、2001年に呱呱の声を挙げまして、早10年の記念すべき節目の年を迎えることができました。その間、景観形成事業・例会・自然教室等々の各分野におきまして、所期の目的以上の実績を積み重ねることができ、その結果、昨年の第35回全国育樹祭においては「公益法人国土緑化推進機構」から「平成23年度ふれあいの森林づくり」優良団体として【国土緑化推進機構会長賞】を受賞いたしました。

本会は、草創期から充実発展期へと進んで参ります。今日まで永年にわたり会報誌の編集を担当していただきました勝田均様から、「これを機に、心機一転の気風を！」と編集長勇退の申し出がございました。

会長さんが慰留に努められましたが、勝田様のご意志が固いため、会長さんからの要請により、後継体制として私ども4名で、編集チームを編成し新年度4月号の編集から担当させていただくことになりましたので、よろしくお願いいたします。

私たち一同、会員の皆様方からお寄せいただきます貴重な原稿を大切に、より親しみが沸き、気軽にお読みいただける誌面づくりに努めてまいりたいと考えています。

どうかご忌憚のないご意見やご要望をお寄せいただきますとともに、会報誌「ネイチャーなら」をより魅力あるものにするために、皆様方のご協力をお願い申し上げます。

- ※ 4月号の原稿締め切り日：3月20日
- ※ 毎月号の原稿締め切り日：毎月20日（期日厳守）
- ※ メールにてお送りください。（word）（原則として）
- ※ 写真も出来ればメールにてお送りください。（JPG）
（手書き原稿やプリント写真は郵送でお送りください）
- ※ 文字のポイントは11Pとします。
- ※ 1ページの文字数は、1行40字、40行を基本とし、
タイトルや写真、絵なども含めてとします。
- ※ ページ・スタイルは、縦割り2段組を基本として
編集したいと思いますので、ご一任ください。
- ※ その他、お問合せ等も含めて、下記までお願いします。

会報誌「ネイチャーなら」編集チーム

鈴木末一・青木幸子・坂東久平・山岡章宏

